



## だいこん・甘藷

### ネマキックは 野菜作りの “守護神”



群馬県太田市 **小久保忠雄さん** <だいこん・甘藷> 2015年

群馬県の南東部に位置するJA太田市。管内では、利根川水系の豊かな水がはぐくむ米麦を主体に、平坦で水はけの良い土壌性を生かしてネギやホウレンソウ、小玉スイカなどさまざまな野菜類を生産している。

線虫防除剤「ネマキック粒剤」を発売当初から使っている小久保忠雄さん(取材当時62)は、甘藷(干し芋用と種芋用=3ヘクタール)、だいこん(加工用=3ヘクタール)などを栽培。その効果の高さから「**ネマキック粒剤は野菜作りの“守護神”**」と太鼓判を押す。

#### ■甘藷の毛穴が目立たなくなった

甘藷の線虫対策は、基本的にネマキック粒剤のみを使用する。甘藷は干し芋や種芋向けであるため、「正直言って、以前は姿・形をあまり気にしていなかった」と打ち明ける小久保さん。当時は毛穴が大きかったり、肌がゴツゴツしたりしているものが目に付いたという。

しかし、「**ネマキック粒剤を使うようになったら、毛穴が小さくて目立たなくなった。肌も滑らかで大きさがそろったようになった**」と使用効果を実感。さらに、**品質やサイズそろいが向上したことで「皮がむきやすいなど加工作業がしやすくなったし、商品化率も上がった。線虫対策をしっかりとすることで、作業全体の効率化や労働力の軽減につながっている」と喜ぶ。**

#### ■品評会で5年連続の金賞に輝く

ネマキック粒剤の処理にあたっては「散布前に圃場(ほじょう)を1~2回ほど耕し、剤を確実かつ均一に混和するのがポイント」と話し、剤の効果を十分に引き出せるように丁寧な作業を心掛けている。

**ネマキック粒剤の効果もあって、だいこんは同JAの農産物品評会で5年連続の金賞を受賞。**甘藷は、今夏の天候不順で生育が思うように行かなかった農家が少なくない中、小久保さんは天候の影響もなく収量・品質とも好成績だったという。甘藷は1月から「かんそう芋 赤城のナポレオン」というブランド名で順次出荷していく。

**「加工用だから何でもいいということはなく、加工用だからこそ品質が高いものを作ることが大切」と強調する小久保さん。「今後も“守護神”ネマキックを使っていきたい」と力強く話している。**

